

■総合計画進行管理総括表

「わたしたちはこんなまちにしてい」全般に対する評価と今後の対応

◇市の評価

＜総括評価＞

○全般に対する評価

・今回の評価は、平成 30 年度の評価であるとともに、前市長の任期 4 年間の評価と捉えることができる。この 4 年間で、総合計画の 5 本の柱のうち、「共に生き、心豊かに暮らせるふれあいのまち」と「共に学び、共に育つ「共育」のまち」、「新しい地域の姿と示す市民主権のまち」の 3 つの柱で、掲げた目標や取り組みをある程度達成できた結果となった。

・また、この 4 年間で個別計画を 3 つ策定したが、依然として 2 つの基幹計画、5 つの個別計画が未策定の状態となっていることは、施策の計画的な推進及び進行管理の観点、そして市民とともにまちづくりを進めていく観点から好ましくないと認識している。

・全体的に評価が昨年度より下がっているのは、緊急財政対策が 2 年目となって、事業の縮小等を継続したことが大きな要因と考える。総合計画で定めた事業を推進していくためには、財政的に自走できる財政構造へと転換させる財政再建こそが最重要課題である。

・緊急財政対策によって、活性化のイベントへの補助金を削減したが、市民や事業者の皆様の熱意とお力添えによって、花火大会をはじめ、市民まつり、アートフェスティバル、スポーツの祭典、市内一周駅伝大会などほとんどの事業が継続して開催されたことは、これまで逗子市が培ってきた市民協働の大きな成果である。

○今後の対応

・現在、逗子市の人口は微減傾向が続いている。少子高齢化と人口減少を改善するためには、人口流出を防ぐだけでなく、子育て世代の移住を今以上に促進させることを目指さなければならない。そのため、子育ての支援や教育などの分野の施策を充実させるとともに、総合計画に位置付けた事業を推進し、逗子市を魅力あふれるまちにしていことが重要である。

・一方、高齢化がますます進む中で、「元気な高齢者を増やそうプロジェクト」を立ち上げ、観光協会や商工会をはじめ様々な機関と連携して高齢者がまちに出る仕組みを構築し、健康寿命を延伸する取り組みを進めていく。

・各政策、施策の推進と併せ、未策定の計画について、現実施計画の期間内での策定を進めていく。

・総合計画の進行管理において、各審議会等から様々な課題のご指摘や今後の改善に向けたご提言をいただいた。これらを「現場の声」として受け止め、これからの取り組みに活かしていきたい。

政策効果を高めるために、進捗を加速するために、工夫・重点化すべき点

○予算

・緊急財政対策によって、人件費の削減、近隣他市を上回る行政サービスの見直しや、各種補助金の削減など大幅なスリム化を断行したことにより、平成 30 年度の財政調整基金残高は、緊急財政対策の残高目標である 10 億円を前倒しで達成することができ、12 億円となった。

・今後とも人件費の見直し、民間委託や広域連携等さらなる行財政改革を進め、基金に頼らない予算編成に徹し、公共施設の老朽化対策や子育て支援の財源確保、超高齢社会への対策に的確に応えていく。

○人・組織

・葉山町からのごみを受け入れ、ゴミ処理の広域化を実施したことにより昨年度より時間外勤務が増加することを想定していたが、時間外勤務全体は横ばいの 1 億 3 千万円となり、緊急財政対策を実施する前の年（平成 28 年度）と比べ、約 6 千万円の削減となった。

・さらに、部署を越えて職員の応援派遣を行う全庁的な制度を運用し、人員削減と時間外勤務の削減を進めていく。

◇総括評価結果

柱	基幹計画評価				個別計画評価 1			個別計画評価 2			事業評価の状況		
	◎	○	△	×	㊤	㊦	㊨	A	B	C	(a)	(b)	(c)
第 1 節	-	1	-	-	-	5	-	-	5	-	14 (11)	8 (11)	4
第 2 節	-	1	-	-	2	3	-	2	3	-	17 (16)	2 (3)	2
第 3 節	-	-	1	-	-	4	1	-	4	1	10	11	3
第 4 節	-	-	1	-	-	3	2	-	4 (3)	1 (2)	4 (3)	4 (2)	5 (8)
第 5 節	-	1 (0)	(1)	-	1 (0)	2 (2)	1 (2)	3	-	1	8	-	3
合計	-	3 (2)	2 (3)	-	3 (2)	17 (17)	4 (5)	5 (5)	16 (15)	3 (4)	53 (48)	25 (27)	17 (20)

※ () の数字は、審議会等から指摘を受けた評価に変更した場合

◇総合計画審議会の意見／【Check】の観点からの意見等

＜総括評価意見＞

- 各懇話会等の評価を受け止め、市民目線に立ち、市民の取り組みを具体的に評価されたい。また、設定した目標値だけを基準にした統一的な評価は前提として重要であるが、ここに留まらず、施策の目的を強く意識した評価や、質を評価する視点など工夫することで、PDCAサイクルがより効果的に機能するよう努力されたい。
- 緊急財政対策により、財政調整基金残高目標を前倒しで達成できていることは、評価に値する。しかしながら、基金はあくまでも手段であって、これから先、これをどのように生かしていくか、財政対策プログラム後の対応や新たな課題への対応をいかに図っていくかが肝要であるとする。

＜各基幹・個別計画の評価状況についての意見＞

- 長寿のまち逗子というキャッチフレーズのもと、フレイルチェックをはじめ、健康寿命を延伸する取り組みについては、第 1 節の理念に合致しており、評価することができる。
- 国際交流推進計画について、グローバル化の急速な進展や社会経済情勢の変化とともに、市民ニーズや評価基準が変容してきている。事業を実施する際や評価をする際は、こうした視点に立ち、取り組まれない。
- 総合計画を支えるのは、基幹計画とこれに基づく個別計画である。各基幹計画の評価は、個別計画の評価に基づいて行われるべきであり、個別計画間の連携も不可欠である。市でも認識しているように、未策定の基幹計画及び個別計画について早期策定を望む。

◇総合計画審議会の意見／【Action】の観点からの意見等

＜今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項＞

- 後半 4 年間の実施計画の運用は、総合計画の施策体系を俯瞰しつつ、前半 4 年間の進捗状況を踏まえ、かつ、環境の変化に即応した取り組みを図られたい。
- 事業実施に当たっては、進行管理の評価を踏まえて検討を加え、実施方法変更する等の改善を図りつつ、目標達成に向け推進すべきである。
- 未策定の計画の策定に当たっては、市民ニーズや意見を踏まえ、現状に即した計画を策定されたい。